

# 公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

施設名	新潟市立乳児院		
管理者名	社会福祉法人愛宕福祉会	指定期間	令和2年4月1日 ~ 令和7年3月31日
担当課	こども未来部こども政策課		
所在地	新潟市中央区川岸町1丁目57番地1		
根拠法令	児童福祉法第37条		
設置条例	新潟市乳児院条例		
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地面積 527.25㎡</li> <li>・延床面積 469.80㎡</li> <li>・構造・階高 木造 地上2階建</li> <li>・施設内容 養育室（共用ラウンジ、寝室、ほふくスペース、キッチン等）、応接・相談室、診察室、調理室、事務室、親子生活訓練室等</li> <li>・定員 10名 ※平成30年度改定</li> </ul>		

施設設置目的
<p>保護者の離婚や病気、養育困難、虐待されている乳児、その他不適切な環境により、家庭で育てることが困難な場合に、児童相談所の判断で乳児（保健上、安定した生活環境の確保その他の理由により特に必要のある場合には、幼児を含む。）お預かりし養育し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行うことを目的とする施設。</p>

## 管理・運営に関する基本理念、方針等

<p>1 基本理念</p> <p>社会的養護の理念と原理のもとに、乳幼児の心身及び社会性の健全な発達を促進し、その人格の形成に資する養育を行うとともに、児童相談所や児童福祉施設等の関係機関と密接な連携を図り、乳幼児に適切な支援を行うこと。</p> <p>2 重点政策</p> <p>(1) 養育・支援 乳幼児の命を守り、その心身及び社会性の健全な発達を促進するため、家庭的な環境で一人ひとりの心に寄り添い、愛着関係を築き信頼関係を育むとともに、発達を支援する環境を整える。</p> <p>(2) 家庭・里親への支援 家庭復帰に向けた親子関係の再構築支援を行い、あるいは、里親への委託に向けた取組を行う。</p> <p>(3) 自立支援計画、記録 子ども一人一人の心身の状況や、生活状況等を正確に把握した、自立支援計画を策定する。</p> <p>(4) 関連機関連携、地域連携及び支援 市、児童相談所、里親会、医療機関及び他施設等の関係機関等との連携・協力体制を構築する。また、地域の里親支援、子育て支援等に取り組むなど、施設のソーシャルワーク機能を活用し、地域の拠点となる取組を行う。</p> <p>(5) 職員の質の向上 定期的に研修に取り組む等、職員一人ひとりの質を向上させ、施設全体の養育・支援の質を向上させる。</p> <p>2 管理運営方針</p> <p>(1) 当該業務において善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。</p> <p>(2) 施設の設置目的を踏まえて、施設の一体的な管理によりその効果を最大限発揮させるよう、努力するものとする。</p> <p>(3) 業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的管理方針のもとで、仕様書に示す多岐にわたる業務について適切に進捗管理を行い実施するものとする。</p> <p>(4) 指定管理者は、施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、保護者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指すものとする。</p> <p>(5) 保護者等や地元等からの要望等に対し、公の施設の管理運営の公益性に鑑み、公平・中立を是としてその運営にあたるものとする。</p>
---

視 点	評価項目	評価指標	実績	評価 ※	評価コメント ※
市 民	サービス満足度	里親研修受講者等へのアンケートを実施し、「満足」が80%以上	里親研修受講者33名にアンケートを実施した。100%が良い(満足)であった。	A	視察・研修受け入れ等のアンケートでは、職員対応につき高い評価を得た。
	苦情・要望への対応	原則7日以内に回答	苦情はなかった。	A	苦情0件である点を評価する
財 務	適正な財務管理	財務マニュアルの作成及び収支状況の記録	法人経理規定、経理マニュアルに基づき適切に管理した。	B	指標どおりであった。
	管理経費の削減	管理経費削減計画に基づき削減に着手	法人事務部会で隔月で検討をし、各事業所での取り組みを発表し合い、他事業所の良い取り組みなどを取り入れた。グリーンカーテンなどの見た目と子どもの支援の両方の視点からの取り組みなどもおこなった。毎月の水光熱費の増減の分析などを行い、季節によつての給湯器の温度設定の変更など細かなところも職員一丸となって取り組んだ。	A	分析のうえ経費削減に取り組み、光熱水等消費量の抑制等の省エネルギーが適切に実施されている。
業 務	業務仕様書等に定める事項の遵守	その他業務仕様書等に定める事項の遵守	遵守した。	B	指標どおりであった。
	安心・安全の確保	・避難訓練等の実施(月1回以上) ・業務マニュアルの見直し	避難訓練、防犯訓練は8月11月の下旬にコロナ感染禍となり感染隔離状態となったため実施することができなかったが、消火訓練は別に行い法令を遵守した。ヒヤリハットはこまめに収集し、毎月分析検討、事故防止啓発に努めた。リスクマネジメントに係る研修も年2回実施。防災に係る備蓄についての見直し(マニュアルも含め)を実施している。	B	指標どおりであった。
	個人情報保護の徹底	・施設内研修の実施(1人あたり年1回以上) ・業務マニュアルの見直し	新年度研修時に個人情報のマニュアルの確認を全員でおこなっている。その際に、子どものプライバシーとは何か、情報の保護とは何かなど具体的な例をだしながら確認をしている。ヒヤッとした対応などは、その都度ヒヤリハットにあげて、職員に周知し改善をするよう努力している。	B	指標どおりであった。
	関係機関との連携等	会議等への積極的な参加(年12回以上)	新潟市・市児童相談所との定例会議、地域連携会議、担当者会議、自立支援計画会議、各協議会への参加、延べ25回に参加した。	A	コロナ禍においても積極的に参加し、関係機関との連携強化に努めている。

	地域との交流	地域行事への参加等、地域との交流を6回以上実施	コロナ禍となり、他者との交流を実施しないという1年間になった。	B	感染拡大防止のためやむを得ないと判断した。
	社会・地域への貢献	再委託する場合の市内事業者への再委託及び物品等の市内事業者からの調達率90%以上	95%	B	指標どおりであった。
	里親支援の実施	里親研修の受け入れ年2回以上	養育里親研修35名70日間を受け入れた。訪問、外出支援、アフターフォロー、電話相談、離乳食講座など多岐にわたり里親支援を実施。里親研修会も4回開催した。	A	コロナ禍においても出来る限りの受け入れを行っている。
人 材	適正な人員配置	条例で定めた基準を上回る職員数の配置	1.3対1以上の配置、FSWIは2名とうち1名を里親担当するなどして自助努力を実施した。	A	高水準の職員配置を行っている。
	配置職員の資質向上	計画的な研修の実施年10回以上	施設外研修延べ39日54人 施設内研修延べ29日300人 法人研修24回24人 コロナ禍のZOOM研修により時間を工夫してオンラインや配信の外部研修を多く実施した。	A	感染予防のため工夫をしながら、研修を多数実施し、運営の質の向上に努めている。
	ボランティアとの連携	ボランティアの受け入れ人数年間延べ10人以上	コロナ禍ではあったが、ボランティアにも健康管理をお願いしながらきていただいた。感染拡大時期は受け入れを中止した。年間延べ171人	A	コロナ禍においても出来る限り積極的な受け入れを行っている。
	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	遵守している	B	適切に実施されている。

指定管理者記載欄（アピールしたい事項・未達成項目への改善策等）

里親支援については、養育里親研修としての実習を35名70日受け入れた。研修内容のプログラムも工夫をし、乳児院への理解や子どもへの理解などがより深まるようにした内容にしていった。担当相談員だけではなく、実際受け入れる養育者（保育士・看護師等）との振り返りの時間を設けるなどして、施設職員と里親のつながりなども持てるように意識づけをおこなった。児童相談所の里親研修の中の4回分を担当させていただき、乳児院の各専門職（心理師・看護師・栄養士・保育士）がそれぞれの専門分野の乳幼児の養育に関わる内容についてわかりやすい資料を作成しながら講座を行い、ディスカッションなどの時間も取り、現在里親登録されている方がたとの交流を行った。

開設当初より実施している、ヒヤリハット収集についても、毎月集計分析を行ったり、すぐに改善したほうがいい事案に関しては即対応するなどして事故防止に努めた。ヒヤリハット報告書は1851枚あがり、事故防止だけでなく、個人情報保護に関すること、不適切な関わりに関する事など多岐にわたるヒヤリハットを収集し、個人情報保護や権利擁護なども含め日々の中で意識した取り組みとなっている。

養育の質の向上に関しては、新たに養育研究とて、大学の准教授の協力を得ながら当施設の養育課題の抽出などに取り組みはじめたり、同法人の児童養護施設と協同してライフストーリーワークを専門講師を継続講師として招聘して研修実践を始めるなどしながら、乳児院に措置される子どもの最善の利益となる支援に着手し始めた。

新型コロナウイルス感染禍となり、予定した避難訓練が実施できない月があったが、隔離にならない事務職員等が消火訓練などの法定訓練を行うなどして、防災活動に努めた。

所 管 課 に よ る 総 合 評 価 （ 所 見 ）

前年度に引き続き、コロナ禍という困難な状況の中、コロナ感染拡大防止に努めながら、里親制度拡充のため、研修の実施や質の高い里親支援を実施できている。また、子ども一人ひとりの「最善の利益」に向け職員一丸となって取り組む姿勢がうかがえる。そのほか従来より取り組んでいるヒヤリハット事例の収集・分析・共有による安全管理や経費削減計画の実施、関係機関の会議への積極的な参加など良好な運営が行われており、指定管理者として優良と評価する。